

# 平成 30 年度 事業報告

公益社団法人 日本滑空協会

## 中長期(5年)計画

- ① 当協会調査では国内滑空団体所属会員総数は 3,000 人、公益財団法人日本学生航空連盟 OB 数は 10,000 人。当協会は国内滑空スポーツ統括団体として、全ての愛好家を考慮した施策を行う。また航空スポーツ発展のため、“空”の仲間である航空スポーツ諸団体と連携する。
- ② 滑空スポーツ振興として、“安全”と“楽しさ”を目標とする。  
 “安全”:国内滑空クラブと密接に情報共有し、安全意識を高め、重大事故発生を防ぐ。  
 “楽しさ”:滑空スポーツ愛好者の“夢”の実現を支援する事業を実施する。
- ③ 滑空スポーツ活動を基礎技術習得である場周飛行とローカルソアリングから、本来の活動である野外飛行を推進し、競技会振興を図り、日本滑空選手権を再開する。

## 平成 30 年度特記事項

### \*安全施策

- ・平成 27 年 6 月以後、その週に発生した事故を JSA 事務局より全国滑空団体に伝達し、週末飛行前のブリーフィングで紹介していただくことを実施している。
- ・平成 28 年 3 月のスピン墜落事故以後、スピンの座学を受講し、少なくとも初動までを体験した人に、申請によりスピンリカバリートレーニング受講章を発行、平成 30 年度末現在 427 名が受講。
- ・平成 28 年 10 月の単座機スピン事故後、2004 年以後の死亡事故 14 件の分析結果から 9 件はスピンに起因していることが分かり、速度管理が疎かになる状況でもストール速度に対するマージンを持った速度で飛行するキャンペーンを行い、機会あるごとに説明を行っている。それが役に立っているかどうかは不明だが、2017 年夏以後、グライダー・MG のスピン起因墜落事故は発生していない。

### ・ 滑空機事故リスト 注 MG:動力滑空機、ST:サステナー 運輸安全委員会集計

発生日付	機種	搭乗	場所	状況	死傷者	
2015	2/1	Discus b 単	1	読売加須滑空場	着陸時機体損傷	
	4/26	SF34B 複	2	蕨崎滑空場	着陸時機体損傷	
	5/1	G109B MG	2	高山市丹生川町	山の斜面に衝突	
	5/17	H36 MG	2	福島スカイパーク	着陸時機体損傷	
	5/30	DuoDiscus 複	2	霧ヶ峰滑空場	発航時墜落	2名重傷
	5/30	Discus bT ST 単	1	北海道浦臼町	場外着陸時墜落	1名死亡
	8/25	HK36TTC MG	1	美瑛滑空場	着陸時機体損壊	
	9/9	H36 MG	2	北見農道空港	着陸時機体損壊	
2016	3/17	プハッチ 複	2	千葉県栄町	墜落	2名死亡
	4/10	CA101B 単	1	熊本県阿蘇市	不時着失敗墜落	
	5/5	304CZ-17 単	1	福島県三春町	空中分解墜落	1名死亡
	10/10	LS4b 単	1	群馬県大泉町	墜落	1名死亡
2017	8/27	H36 MG	2	福島県福島市	墜落	1名死亡
	11/10	Discus CS 単	1	大野滑空場	発航中断後機体損傷	
2018	12/9	ASK13 複	1	妻沼滑空場	発航中断後機体損傷	1名重傷

2019	4/29	DG500M	複 MG	2	萩・石見空港	滑翔中エンジン不始 動、着陸中機体損傷	
	5/2	DG500	複	2	北アルプス焼岳	滑翔中山林に不時着	

\*FAI 公式立会人、日本滑空記章試験員の資格更改

平成 30 年 1/1 付で FAI 公式立会人および日本滑空記章試験員の資格を更改、任期は 2020 年末、FAI 公式立会人は 57 名から 48 名、日本滑空記章試験員は 55 名から 67 名になった。第 1 回就任講習会を 2018 年 3/24 航空会館で開催し、22 名受講。H30 年度全国各地の各種講習会の際に試験員講習会を実施(2.3 参照)。

\*機関紙 JSA インフォメーション

第 315 号(H30 年 7 月発行)から、独立行政法人日本スポーツ振興センター、スポーツくじ助成事業として、新チームで編集発行。編集長 吉岡名保恵、担当理事 八尾理事、佐志田理事の体制で、より充実した情報提供を目指し、若い愛好家に興味を持ってもらうよう努めている。

1. 滑空スポーツ統括普及に関する事業

1.1 各種外部委員会での活動

当協会は官公庁、航空界に対して滑空界代表として活動している。

- ・ 技量維持連絡会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事) 航空安全講習会企画運営の会議
- ・ 航空医学委員会(事務局 JAPA JSA 甲賀常務理事)
- ・ 学科試験問題検討委員会(事務局 JAPA JSA 小野淳委員)
- ・ 裾野拡大プロジェクト(事務局 JAPA JSA 吉田監事)
- ・ 小型航空機等に係る安全推進委員会(事務局航空局 日口理事→玉中理事)

航空局が事務局の委員会が新設され、平成 28 年 12/20 に初回、平成 29 年 3/28 に 2 回目、9/25 に 3 回目、平成 30 年 3/14 に 4 回目、平成 30 年 10/3 に 5 回目、平成 31 年 3/20 に 6 回目が開催された。滑空界を代表して日口理事がオブザーバーとして出席、第 6 回から玉中理事に交代。

1.2 滑空スポーツ関連の調査

2011 年から始めた滑空スポーツ基礎データ(滑空場、滑空機、機材、愛好者、活動)調査、現在 2018 年度データを収集中。

年度	回答 団体数	所属 会員数	内 女性数	25 歳 以下	各種 ライセンス数	滑空機 機体数	飛行 回数	飛行 時間
2018	調査中							
2017	35	2,821	316	1,056	1,284	330	53,798	17,996
2016	35	2,726	277	1,016	1,104	296	56,429	15,847
2015	36	2,975	115	997	1,330	325	56,158	16,721
2014	33	2,572	260	926	1,018	307	49,368	14,099
2013	34	2,366	76	711	1,115	286	49,150	9,031
2012	42	2,686	73	746	1,202	311	56,335	14,498
2011	54	3,255	調査せず		1,429	317	45,235	9,399
2010	34	2,065			1,002	143	26,263	9,756

注:女性数および 25 歳以下愛好者数の大部分は大学生。卒業後も続ける人が少ない。

### 1.3 航空関係諸団体との連携

#### \*滑空団体との連携

- ・国内滑空団体にメールで各種情報提供を行い、安全性向上に努めている。
- ・クラブミーティングを通じて滑空界全体の意向を理解し、活性化を醸成する。(日口理事)  
平成 26 年から、有志滑空団体メンバーが大野(H26、11 月)、長野(H27、6 月)、板倉(H27、11 月)、角田(H28 11 月)、滝川(H29 10 月)、久住(H30 10 月)で開催。初回で我が国滑空界を変えるには自ら動かなければならないとのコンセンサスを得た。当協会会員にかぎらず、会員の権利を不当に侵害する事なしに、滑空スポーツ愛好家の情報および意見を当協会事業に反映するようにしたい。

#### \*大学生愛好家が卒業後社会人滑空クラブへの入会を促進するための施策

大学生滑空競技会副賞として、有志滑空団体から体験搭乗提供をいただき、受賞者に滑空団体で飛行する機会を提供する施策を始め、(公社)日本グライダークラブ、(公社)長野グライダー協会、NPO 葦崎航空協会から体験搭乗機会のご提供をいただきましたが、応募者が少なく事業終了。

#### \*FAI (IGC)

2019 年 3/8-9 イスタンブール(トルコ)で総会:Delegate 甲賀常務理事が出席。

- ・今年の議題は①電子化の進んだ滑空スポーツのルールの中にある不要な部分の改正。
- ②競技会での選手のトラッキング情報利用に起因する巨大ガグルの危険解消の各種提案があった。
- ・上記①は粛々と実施、②は有効策なし、ただし機体位置情報に十数分の Delay を付けて公開するシステムを Dr. Angel Casado Alonso(スペイン)に開発依頼することが決まった。
- ・9 月にイタリアで開催される 13.5mWGC と同期して、機首電動プロペラ付 13.5m 新規格機(e-concept)の試行競技会を開催する。信頼性が高い電動 SL の実用化は、滑空スポーツのアウトランディングリスクを減らす策で、未来の姿を示す可能性がある。ただし関連法的整備が必要。
- ・滑空スポーツの世界ルール Sporting Code の普及・NAC との関係業務一部を丸山理事が担当。

#### \*航空スポーツ団体との連携

・スカイスポーツフェスタ(SSF)2018 活動(SSF2018 事業は実行委員会で実施)

ほぼすべての航空スポーツ団体がこれに加盟しており、この活動を通じて、連携を深めている。

10/21 妻沼滑空場でイベントを開催し、各航空スポーツ団体が地上展示、デモ飛行、体験飛行を提供した。残念ながら気球体験搭乗は風があったため中止。

・2019 年度は 10/20(日)妻沼滑空場で実施予定。

SSF 実行委員長 井上常務理事、JSA 実行委員:吉田監事、甲賀常務理事

#### \*自衛隊、使用事業などとの連携

平成 30 年 10/10 航空自衛隊入間基地 甲賀常務理事、玉中理事、篠原理事出席

平成 31 年 2/2 海上自衛隊下総基地 甲賀常務理事、吉田監事出席。

・関東地方空域に関する連絡会を通じて連携を図っている。

### 1.4 情報発信:各種広報手段について内容充実、編集メンバー強化策の実施

#### \*ホームページ運営 丸山理事 事務局 渡辺翼、五十嵐健大

H29 年 10/1 付でホームページを刷新し、現在に至る。

#### \*機関誌 JSA インフォメーション 発刊(7、11、3 月、全 3 回 発行部数 700 部)

H30 特記事項で報告済。 会員でない滑空記章申請者に対して最新号を贈呈している。

## 2. 滑空スポーツ愛好者育成に関する事業

### 2.1 指定航空従事者養成施設

\*制度運営 設置者:後藤昇弘会長、管理者:鈴木康一元常務理事  
事務局長:玉中宏明理事、監査人:谷口監事

・指定養成連絡会議 2/3(土)航空会館 本部および訓練所間の連絡会議

・養成実績

期	訓練所	訓練期間	実日数	入所	修了	備考
第1期	大和根	4/15-5/5	7日間	2名	2名	
第2期	長野	9/5-9/23	7日間	1名	1名	
第3期	宝珠花	12/15-1/8	8日間	3名	3名	
第4期	宝珠花	3/20-4/14	7日間	1名	1名	
合計				7名	7名	

### 2.2 日本滑空記章制度

\*運営:事務局

FAI 公式立会人・日本滑空記章試験員 任期 2018/1/1-2020/12/31

試験員種別	人数	備考
FAI 公式立会人	45	FAI 公式立会人資格のみ保持 1人
日本滑空記章試験員	69	
合計	70	

### 滑空記章申請数

滑空記章種別		申請数	備考
国内章	A章	92	
	B章	65	
	C章	41	
	銅章	47	
FAI章	銀章	1000m	5 豪3 国内2
		5H	12 豪5 国内7
		50km	8 豪6 国内2
		章	6 豪5 国内1
	金章	3000m	3 豪
		5H	
		300km	1 豪
		章	2 豪
	Diamond	300km	3 豪
		500km	1 豪
5000m			

\*日本滑空記章規程の見直し

操縦士実地試験実施細則の改訂をきっかけに、各章の位置づけと銅章試験の実技試験の見直しを検討し、改定の趣旨を理事会で討議した。具体的な規程文章の見直しを実施中。

\* (仮称) 30km章

日本滑空記章銅章と国際滑空記章距離科目 (50 km) との間の段差が大きいという指摘が以前からあり、この差を埋めるためのステップとして (仮称) 30km 章の制定を検討した。2019 年度に制定に必要なデータを収集すべく、トライアルを企画した。

2.3 講習会・セミナー

くじ助成金(独立行政法人日本スポーツ振興センター)対象事業として実施。

(事務局、日口理事、各地で会員にスタッフとしてご協力いただいた)

・滑空スポーツ講習会：滑空スポーツの話題についての講演

期日	開催地	会場	講師 ( ) 記章試験員講習会	受講者数
12/15(土)	大阪	心齋橋アットビジネスセンタ	櫻井玲子、市岡拓也(佐志田伸夫)	21 (3)
3/17(土)	福岡	TKP ガーデンシティ会議室	櫻井玲子	53
3/9(土)	札幌	TKP カンファレンスセンター	村山浩史、植田展生(佐志田伸夫)	32 (5)

・航空安全講習会

航空局通達に基づく、自家用操縦士の技量維持のための講習会として技量維持連絡会(JAPA、AOPA-J、日飛連、HCJ、および JSA で構成)と連携して実施した。

特定操縦技能審査制度が実施され、各滑空団体内の審査員が実施するようになり、有効期間が2年のため、理論的にはライセンスの半分が毎年受講することになる。

2019 年度はグライダーの特性を生かした講習会を実施し、安全性向上に寄与したい。

期日	開催地	会場	講師 ( ) 記章試験員講習会	受講者数
12/8(土)	静岡	静岡駅ビル貸会議室	吉田徹、日口裕二	25
12/15(土)	東京	航空会館	吉田徹、植田展生、(甲賀大樹)	24 (16)
1/19(土)	名古屋	ABCビル会議室	吉田徹、丸山毅、(甲賀大樹)	42 (7)
1/26(土)	仙台	仙都会館	吉田徹、茂田慶一、(甲賀大樹)	18 (7)
2/3(土)	東京	航空会館	吉田徹、茂田慶一、(佐志田伸夫)	29 (8)
2/23(土)	岡山	ウェーブハウスビル会議室	吉田徹、日口裕二	19

\* インストラクターマニュアル委員会

我が国での滑空機操縦トレーニングに関する総合的なマニュアルを作成すべく準備を進めている。BGA(British Gliding Association) のインストラクターマニュアルを参考に、国内事情に適合したマニュアルを作成することを目的とする。現在、有志が進めた翻訳が最終段階に達し、本題である日本インストラクターマニュアル(JIM)の原稿執筆に移っている。

3. 滑空スポーツ競技会に関する事業

3.1 競技会主催

現在実施していない。将来、日本滑空選手権をFAI カテゴリー2で開催し、その中からWGC出場選手を選び、ナショナルチームとして参加することを目標とする。

3.2 競技会後援:協会規程に基づいて、国内滑空競技会の後援を行う。(事務局)

\*銅章レベル、あるいはそのクラスで最高の滑空スポーツ競技会:日本滑空協会賞授与

- ・第 51 回全日本高等学校滑空選手権大会第 1 部 7/27-7/29 於妻沼滑空場  
団体 1 部 優勝 慶應義塾高校 1-A、2 位 慶應義塾高校 1-B  
団体 2 部 優勝 慶應義塾高校 2-A、2 位 慶應義塾高校 2-B  
個人 1 部 優勝 緑川倫(慶應)、2 位 松本健吾(慶應)、3 位 鳴村俊介(慶應)  
個人 2 部 優勝 村田祐真(慶應)、2 位 玉木湖凜(慶應)、3 位 咲間全博(慶應)  
開会式、閉会式に吉田監事、甲賀常務理事出席
- ・第 21 回東京六大学対抗グライダー競技会 9/2-8 於妻沼滑空場  
団体 優勝 慶應義塾大学、2 位 東京大学、3 位 早稲田大学  
個人 優勝 山路優輝(慶應義塾)、2 位 坪井亮洋(慶應義塾)、3 位 麻生晃平(東京大学)  
開会式に甲賀常務理事、閉会式に佐志田理事出席
- ・第 21 回全日本学生グライダー新人競技大会 9/9-14 於木曾川滑空場  
団体 優勝 早稲田大学、2 位 慶應義塾大学、3 位 法政大学  
個人 優勝 伊藤万貴(早稲田)、優勝 田辺悠介(慶應義塾)、3 位 松山端季(法政)  
閉会式に甲賀常務理事出席
- ・第 48 回早慶対抗グライダー競技会 2/24-3/1 於妻沼滑空場  
団体:優勝 慶應義塾大学  
個人:優勝 山崎大輔(慶應義塾)  
甲賀常務理事開会式閉会式出席、吉田監事閉会式出席
- ・第 59 回全日本学生グライダー競技大会 3/11-3/16 於妻沼滑空場  
団体 優勝 慶應義塾大学、2 位 法政大学 3 位 東京大学  
個人 優勝 山路優輝(慶應)、2 位 林竜也(法政)、3 位 麻生晃平(東京大学)  
後藤会長 開会式、閉会式出席。甲賀常務理事 大会参与就任、閉会式出席

\*C 章レベルの滑空スポーツ競技会:滑空奨励賞授与

- ・第 22 回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 8/11-8/17 於妻沼滑空場  
団体 優勝 日本大学 B チーム、2 位 関東千葉工 Jr.チーム、3 位 中央大学チーム  
個人 優勝 窪寺宏紀(日本大学)、2 位 川野慎吾(青山学院)、3 位 瀬脇颯(千葉工業大学)
- ・第 58 回全国 7 大学総合体育大会 航空の部 2/27-3/6 於関宿滑空場  
団体 優勝 東京大学、2 位 名古屋大学、3 位 京都大学  
個人 最優秀選手 柳泉穂(東京大学)、2 位 麻生晃平(東京大学)、  
3 位 辻壮一郎(京都大学)

\*その他(滑空スポーツ記録会等):滑空奨励努力賞授与

- ・第 15 回おおのローズカップ 5/3-5/6 於大野滑空場  
団体 優勝 アルテアクラブ、2 位 プチワーカーズ、3 位 チーム夢追人  
個人 最優秀選手、2 位 額額裕俊、3 位 小波津俊之

3.3 海外選手権への選手派遣(推薦、支援)

第 35 回 World Gliding Championships Club、15m、Standard 大会 7/8-21 Ostrow Poland  
Std.Class 2 位/47 選手 市川 展 LS-8 (優勝は Sjaak Selen オランダ)

#### 4. 法人事業

##### 4.1 会員

\*滑空スポーツ愛好者の高齢化が進み、飛行活動からの引退と共に協会からの退会が増加しており、これに対して若年層の会員登録が少なく、世代交代がスムーズに行われていない。  
会員数が 500 名を切るまで減少している。

会員種別	2018/4/1	2019/3/31	入会	退会	死亡
団体会員	4	4	0	0	0
個人会員(内女性)	500	493(15)	13	19	1
内ジュニア(女性)		6(0)			
合計	504	497			

##### \* FAI 表彰

エアスポーツメダル 中澤 愛一郎

##### \* (一財)日本航空協会表彰

日本記録樹立 市川 展

DO 級(OpenClass)一般 自由往復距離 1005.21km

DO 級(OpenClass)一般 1000km往復コース速度 124.63km/h

##### 4.2 法人の体制強化、事務局業務の整備

\*公益社団法人化後ほぼ4年半経過し、大過なく運営している。会員数減少に伴う収入減に対応して、事務局稼働日削減、各種連絡のメール化など経費削減を行っている。ただしマンパワー不足は否めず、現在以上の事業拡大にはマンパワー増加無しには実施困難。

##### 4.3 会議

\*理事会: 平成 30 年第 1 回理事会(総会議案策定 H30 年 5 月 12 日(土))

第 2 回理事会(新任役員互選) H30 年 6 月 2 日於航空会館 901 会議室

第 3 回理事会(2019 年度事業計画・予算策定) H31 年 2 月 3 日(土)航空会館

\*平成 30 年総会:平成 30 年 6 月 2 日 於航空会館 901 会議室

平成 29 年度決算報告承認、同事業報告、平成 30 年度事業計画、予算 報告

以上